

(様式3)

## 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成28年2月26日

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0873300693		
法人名	社会福祉法人 若葉会		
事業所名	グループホーム みのり園	ユニット名	
所在地	〒319-2214 茨城県常陸大宮市鷹巣2243-1		
自己評価作成日	平成27年6月30日	評価結果 市町村受理日	平成28年3月1日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報 リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kihon=true&amp;JigyosyoCd=0873300693-00&amp;PrefCd=08&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kihon=true&amp;JigyosyoCd=0873300693-00&amp;PrefCd=08&amp;VersionCd=022</a>
-----------------	---

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成27年8月19日	評価機関 決 済 日	平成28年2月26日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

自然豊かで、身体にやさしい環境の中で、一人ひとりの生活歴・仕事歴を理解し、個性や尊厳を大切に、全職員が一丸となりケアに努めている。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は緑豊かで四季の変化を感じることができる場所に立地している。  
同一法人の介護老人福祉施設や通所介護施設が併設しており、毎月合同で避難訓練を実施して利用者や家族等の安心につながっている。  
職員は利用者の食物アレルギーや薬の飲み合わせ、苦手なもの、嚥下障害などを把握し、代替え食やミキサー食等を用意して食事を楽しめるよう支援しているほか、利用者と外出する場合には事前に下見をして、外出が安心安全に楽しめるよう配慮している。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践  地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所独自の理念を作り、全職員が利用者の心身の安寧を守るよう理念を共有し、実践出来るように努めている。スタッフルームやトイレなど理念をわかりやすく掲示し、いつでも誰でも目を通せるように工夫している。	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所独自の理念を作成し、事務室や職員室、トイレなど何時でも目に付く場所に掲示するとともに、職員会議でも確認して共有し、実践に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい  利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣住民・ご家族など様々な人たちから野菜の差し入れを頂く機会がある。地元の保育園児・小学生・中学生・ボランティアとの交流の場を設けている。	事業所は町内会に加入しており、近隣住民から苗や季節の野菜などの差し入れがある。七夕祭りやクリスマス会には保育園児が来訪し、踊りや太鼓を披露してくれたり、同一法人の事業所と合同で開催する納涼会には、地域住民が200名以上来訪している。利用者が地域の敬老会に参加したり、小学生や中学生の職場体験、大正琴のボランティアなどを受け入れ、地域と日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献  事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の敬老会等で交流を図ったり、園便り等を発行し、認知症の理解を深めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で事業状況、利用者状況を報告し、認知症の理解など意見交換している。会議で得たことを介護の場で生かしている。	運営推進会議は家族等の代表者や市職員、地域住民、民生委員、職員等で2ヶ月に1回開催し、議事録を作成している。事業所からは運営状況や活動報告をしたり、参加者との意見交換を行っている。地域の代表者から、「外出等利用者の喜ぶことを積極的に取り上げて欲しい」との意見を受け、職員で検討して記録に残すとともに、サービスの質の向上に活かしている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携  市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市役所職員には、事業所の状況を報告し、指導や助言を頂いている。	管理者は市担当者を随時訪問し、介護保険の改正に関する疑問点を聞いたり、要介護更新申請の情報得たりしている。 市のグループホーム連絡協議会に参加し、情報交換を行なうなど、協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践  代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	個々の職員が身体拘束について、自己啓発し、各々学んだ知識は職員間で共有し、身体拘束ゼロに取り組んでいる。	身体拘束排除に向けた研修を定期的に行い、職員は身体拘束の具体的な行為や弊害を理解している。 日々の介護中に出た疑問点は、その都度管理者や職員に相談し、身体拘束をしないケアに努めている。 日中は玄関の施錠をせず見守り、身体拘束をしない介護に努めている。 やむを得ず身体拘束を行う場合に備え、同意書や経過観察記録等の書類を整備している。	
7		○虐待の防止の徹底  管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束廃止や虐待に関する研修に参加したり、学ぶ機会を持ち、職員間で共有している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に積極的に参加し、職員間で共有している。学習したことを介護の現場で常時活かせるようにレベルアップを目指している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に分かりやすく説明し、ご家族の不安や疑問に答え、納得した上での署名、捺印を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時に相談・苦情の受付の体制が整っていることを説明している。玄関先に相談、苦情を記入する用紙を投書箱を設置している。また、面会の際にも声掛けをしている。	利用者からは日々のふれ合いの中で、家族等からは面会時や電話などで意見や要望を聴いている。 出た意見や要望は管理者と職員で話し合い、運営に反映している。 玄関に意見箱が設置されているが、活用されていない。 家族等の意見や要望を広く求めるアンケートを実施するまでには至っていない。	意見や要望を幅広く取り入れるためにも、家族等に無記名のアンケートを実施することを期待する。
11	7	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議をを設け、意見交換・相談助言が受けられるように取り組んでいる。	管理者は月1回の職員会議や日頃より、職員の意見等を聞くように努めている。 職員の提案で、服薬結果を「申し送りノート」に記載して確認し、担当職員に報告している。	
12		○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人全体会議などで個々の努力、実績勤務状況を評価している。また、つねに職員に気配りし、困りごとなどの有無を確認している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全職員が研修を受ける機会を得られるように配慮している。研修後も報告書を作成し、他職員と共有を図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	認知症に関する研修・勉強会に参加し、同業者と交流を深め、悩みや相談を話し合いサービス向上に努めている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に訪問し、本人の性格や情報を収集し、困っていること、願望等に耳を傾け安心して生活して頂けるように努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の来園時に不安なことや要望を良く聞き、話しやすい雰囲気作りをして信頼関係を築くようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、ご家族が必要としているものや状況を考慮し、サービスの検討を心がけている。また、希望があれば併設の施設の見学も行っている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	残存能力を生かし、個々の得意分野で活躍、自身に繋げていく。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会にみえた際には、本人の状況を報告して家族関係が良好になるようにしている。また、状態の変化があった時は、その都度、連絡、相談を行い協力を頂いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	気軽に面会に来られるように支援している。遠方の方は電話で会話ができるようにしている。携帯電話を所持している利用者もいる。買い物や外食会など馴染みの場所に出かけたり、関係が途切れないようにしている。	利用者の知人が来訪した際には、居間や居室でゆっくり話ができるよう配慮している。 年末の外泊や墓参りなど、利用者の希望を家族等に電話や手紙で伝えている。 月1回の外出日に市内の衣料品店やスーパーマーケット、本屋等に出かけたり、美容室への外出など馴染みの人や場所との関係が継続出来るよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う利用者同士が過ごせるように配慮している。孤立しがちな利用者は職員が仲介に入り関わりをもてるようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、本人やご家族に声をかけるなどして、支援に努めている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の変化を観察しながら、ニーズの把握に努めている。利用者の会話の中での思いや意向を記録し、支援を行っている。	職員はアセスメント表や日々の関わりの中で、利用者の希望や思いを把握するとともに、「申し送りノート」に記載して職員で共有している。 意志疎通の困難な利用者の場合は、家族等に相談したり、表情や仕草などで思いの把握に努め、利用者本位の支援をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの生活歴や暮らしを持続できるように努力している。		
25		○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	つねに、見守りを行い、個々の生活リズムに合わせた1日の流れを作っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、ご家族が必要な関係者と話し合いをもって、意見やアイデアをを反映し、より良い介護計画を作成している。また、身体状況に変化があった場合はその都度見直しをしている。	介護計画は利用者や家族等の意向を取り入れるとともに、支援経過記録をもとに課題を把握し、医師の意見を取り入れて職員で話し合い、計画作成担当者が作成している。 3ヶ月毎にモニタリングを実施し、短期目標は3ヶ月長期計画は6ヶ月毎に見直している。 利用者の心身の状態に変化が生じた場合は、随時モニタリングを行い、介護計画を見直している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日誌やケース記録に記入し、その内容は職員皆が把握・共有できるようにお互いに申し送り合い新しい計画にプラスしていく。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・ご家族の要望に応じられる体制が整っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	保育園・小学校・中学校や地域ボランティアの訪問を受けて支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時に利用者・ご家族の希望を確認し、かかりつけ病院や協力病院を受診している。入居前の馴染みの関係が継続できるように対応している。	利用者や家族等が希望するかかりつけ医への受診を支援し、その際は家族等が付き添うことを基本としているが、都合が悪い場合には職員が同行している。 家族等が付き添う場合は、「情報提供書」を渡してもらい、結果を家族等から聴いて個人記録に記載しているほか、職員が付き添った場合は、家族等へ電話等で結果を連絡している。 月1回協力医療機関の医師による訪問診療を支援している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日のバイタルチェックや観察など健康管理を行い、かかりつけ医や看護師と密に連携し必要に応じ、家族に助言している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関・ご家族・施設と話し合い、早期退院が出来る方向で話している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に看取り介護に関する指針の説明をして同意を頂いている。変化があれば、ご家族と相談し、病院受診を検討している。	契約時に「看取り介護に関する指針」にて看取り介護の具体的内容を利用者や家族等に説明し、同意を得ている。 併設する特別養護老人ホームの看護師や、協力医療機関と連携を図るとともに、全体会議において年1回看取りに関する研修を実施している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルにそって対応している。また、救急救命講習会に参加したり、併設施設と連携を取っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月、併設施設と日中・夜間を想定した避難訓練を行っている。また、地域との協力体制も整っている。	避難訓練は毎月実施し、記録を残している。 地域住民による地域の協力隊が設置されているが、避難訓練に参加するまでには至っていない。 災害に備えて飲料水や米、缶詰等を品名や数、賞味期限等を記載した備蓄品リストを作成して管理している。	運営推進会議等を通じて呼びかけ、近隣住民の参加を得た避難訓練の実施を期待する。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格の尊重とプライバシーの確保に努め、個々に合わせた声掛けでコミュニケーションを行っている。	プライバシー保護に関する勉強会を実施し、利用者の人格の尊重について確認している。 職員は利用者一人ひとりを人生の先輩として敬い、人格を尊重するとともに、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応に努めている。 個人情報に関する書類は、施錠できる書棚に保管し、取り扱いに注意している。 広報誌等への写真の掲載については、契約時に利用者家族等の同意を得ている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	気軽に話しやすい環境を作りをすると共に、本人の意思を尊重し、自己決定が出来るようにしている。また、相手の声に傾聴する姿勢を持ち、個々に合わせた対応をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切に、個々の希望に沿ってその人らしい暮らしが出来るように見守りを支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	馴染みの美容室へ行ったり、月に1回移動美容室を利用している。また、衣類も好みの物を着用している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの好きなもの、嫌いなものを把握し、嫌いなものがある時は献立にある時は別メニューで提供している。また、育ったとれたての野菜を使用し、共に調理している。会話も気分も弾むような食卓づくりをしている。	利用者の嗜好を把握し、苦手な食材の場合には代替え食を用意して食事を楽しめるよう配慮している。 職員は食べこぼしや嚥下に注意しながら利用者と同じテーブルで食事を摂っている。 誕生会でのケーキや饅頭などの特別食のほか、外食時には刺身やそばなどを楽しんでいる。 利用者は各自の食器や箸を使用し、出来る範囲で野菜の下ごしらえや後片付け等の役割を担っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取表を作成し、毎食の食事量・水分量を記入している。また、個々に食形態や量・制限があるため、留意点をキッチンに掲示している。		
42		○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行い、口内の清潔を保つと共に虫歯や誤嚥性肺炎の予防に努めている。出来るだけ、自分で磨いていただき、必要に応じて介助している。		
43	16	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄表による個々の排泄パターンを把握し、時間にとらわれず、個々のサイクルで声掛け誘導を行っている。また、個々の排泄サインを把握している。	職員は排泄チェック表を活用して排泄リズムを把握し、利用者一人ひとりのタイミングに合わせてトイレ誘導を行っている。 紙パンツから布パンツとパッドに変更したり、夜間にポータブルトイレを設置するなど、利用者一人ひとりにそった支援をしている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自力排便が出来るように生活動作にあわせた運動支援や腹部マッサージを心がけている。排便チェック表を記入し、何日排便がないかが一目でわかるようになっている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	個々の身体状況に合わせて、車椅子の利用者は機械浴での入浴となっている。入浴剤・柚子湯・りんご湯など季節の入浴を楽しんでいる。	入浴は週3回午後の時間帯を基本とし、利用者の体調によっては、シャワー浴や清拭等に変更するなどして支援している。 入浴を拒む利用者には職員を替えたり、時間帯を変えたりして対応している。 菖蒲湯や柚子湯等や入浴剤の使用で、季節感や入浴を楽しめる支援を行っているほか、介護度の高い利用者には、同一法人の通所介護事業所の機会浴を利用して入浴を楽しめるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣や日々の状況に応じて休息したり、できるように支援している。また、天気の良い日には布団を干したり、寝具類の清潔保持に努め、気持ちよく眠れるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服用している個々の内服薬のリストを元に副作用・用法・用量について理解している。また、薬が変わったり増量・減量になった時など症状の変化の観察を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入所前の生活歴や仕事歴を生かし、一人ひとりが活躍し、生きがいにつながるように支援している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの志向にそって買い物に行ったり、お花見やりんご狩り、外食会を行っている。また、併設施設に散歩に行き、なじみの場所や人たちとふれあいを大切にしている。	天気の良い日には、利用者と職員は事業所周辺を散歩している。 年間の行事計画を立てて近隣の寺院への初詣を始め、公園や植物園への花見、西山荘などへ公用車で出かけ、季節を感じるよう支援している。 利用者は職員と一緒に自家菜園でミニトマトやナス、キュウリ等の栽培を楽しみ、収穫した野菜は日々の食材に取り入れている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持つことの安心感を配慮し、買い物などはお金を所持し、支払っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけて欲しいとの訴えがあった時は、その都度対応している。また、携帯電話を持っている利用者もいる。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間には、不快や刺激がないように配慮している。季節の花や創作物を飾ったり、季節感を味わい、居心地よく過ごせるように工夫している。	玄関や居間兼食堂に季節の花や観葉植物を飾り、居間兼食堂の一隅にある和室は、利用者がテレビを楽しんだり、洗濯物等をたたむ場所になっている。 壁面には利用者と職員で制作したイルカやひまわりの張り絵のほか、中学生の職場体験の写真等が掲示され癒しの場になっている。 居間兼食堂は天窓が設置され、明るく、職員がこまめに室温等を調節し、居心地良く過ごせる場所になっている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアに設置してあるソファと畳部分、飲食スペースのテーブル部分等の共有空間の中にも個人で過ごせる空間を確保し、利用者にとって、苦やストレスにならないように配慮している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたハンガーラック・時計・タンスを持ってきている人もいる。また、家族やペットの写真、懐かしい思い出の品など本人が安らげる空間を工夫している。	居室にはベッドやエアコン、クローゼット、洗面台、カーテンが備えつけられている。 箆笥や椅子、時計、テレビ、扇風機、家族やペットの写真、鏡、布団など、自宅で使い慣れた物や思い出の物品を持ち込み、居心地よく暮らせる場所となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、お風呂等の共有する場所には表札があり、分かりやすくなっている。また、手すりが設置してあり、安全対策に工夫している。		

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○ 1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	1, ほぼ毎日のように ○ 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	1, 大いに増えている ○ 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○ 1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○ 1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

(様式4)

## 目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホームみのり園

作成日 平成28年3月1日

### 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	6	意見や要望を幅広く取り入れる為にもご家族の無記名アンケートを実施。	年に1回のご家族へのアンケートを実施し、出た意見・要望を運営に生かしていく。	ご家族が意見を出しやすいアンケートを作成し、意見要望を広げていく。	3ヶ月
2	13	運営推進会議等を通じて呼びかけ近隣住民の参加を得た避難訓練の実施。	運営推進会議や季節行事で避難訓練の避難訓練の呼びかけを実施していく。	近隣住民、ご家族に避難訓練の体験をして頂き、新たなきずきに取り組んでいく。次年度予定に組み入れる。	3ヶ月
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。